
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』 第170号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.11.03 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1364 部*****

□ 目次 □-----

<今週の提言> 農業・雑学のすすめ 小泉浩郎

<読者の声> 小川さんから；今井さんから

<80才からのメッセージ>

小泉首相は、ニューヨーク・タイムズに、どう答えるか。 原田 勉

<老兵の戯言> 小学生の学力差 藤原 昇

<玉川上水の謎> その11 おわりに 安富六郎

<田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ だより>

全国のリトルファーミングクラブをウェブで紹介 増山博康

<編集後記> 臭うということはそんなに悪いことなのか？

<今週の提言> 農業・雑学のすすめ

日本の食料自給率は、先進国では最低である。自給率向上が課題だが、農業生産者の高齢化が進み、耕作放棄地が増えている。だからと言って株式会社の農業参入に門戸を無条件で開いてよいか。「食の安全・安心」は当然だが、無農薬、無化学肥料の栽培では、農業の科学技術の発展を否定することにならないか。小規模農家、特に兼業農家は農政の足手まといだという国の担い手政策では、本当に安定した食料確保、土地と水を守る国土保全が可能か。このところ、重要な論議が、それぞれの立場で単線的に論じられ、短兵急な結論が横行しているように思う。

「農業は農業である」。独自の歴史と文化があり、果たすべき役割がある。総合的な視点から評価し、あるべき方向を見定める必要があろう。多分、ビジネス感覚も重要だが、百姓根性も大事だろう。生物本来の力を引き出すには、

科学的道理も必要だろう。生産性の高い農業生産の定着には、土地と水をみんなで守るという規範が基盤になるだろう。農業はこうだと割り切らないためにも、農業農村に対する複眼的な見方、雑学が今、求められているように思う。

ナツメ社から「図解雑学」という本が出ている。既に 288 のタイトルが出ている。農業関係が出ないかと心待ちにしていたが、本年 6 月、270 番目で「図解 農業」が出た。「農業によって作物や家畜がどのように生産されているのか、日本の農業がどのように発展してきたのか、世界の食料生産はどうなっているのか、農業や農村は農業生産以外の面でも国民の生活とどうかかわっているのか、世界貿易の中で日本の貿易はどうなるのか」などについて絵と文章で分かりやすく解説している。ざーっと目を通し、自分の主張を再考してみてもどうだろう。

図解雑学 農業

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4816339264/qid%3D1130810957/250-7334207-2984229>

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<読者の声>

●小川さんから

原田 勉 さま

ご無沙汰しています。

百歳の巴金（は・きん）死去の記事を見ました。

近藤康男さんのインタビューで、聞いたことを思い起こしました。

参考に、共同通信の記事を送ります。

【上海 1 7 日共同】中国の文豪、巴金氏が死去 ノーベル賞候補にも

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20051018-00000001-kyodo-ent>

(共同通信) - 10月18日0時42分更新

共同通信 小川明

○原田勉からのコメント：

中国の作家・巴金の遺言

小川明さんメールありがとうございました。

近藤康男先生は、現在106歳、リハビリ病院に入院中であるが、中国の巴金氏が100歳で亡くなったことをお伝えした。

近藤先生は、巴金の言葉「過去を忘れさえなければ、未来の主人になることができる。」を座右の銘として過去の日中戦争のことを反省しておられる。

当時の日本政府は、満州には、たくさんの安い土地があると宣伝して移民を強行し、満州の中国人の土地を取り上げて追放した。強大な力を持っていた関東軍は、若い移民をいざというときの戦力にしようともくろんだ。結果は敗戦時に多数の犠牲者を出した。

過去を忘れさえなければ、戦争に二度と参加しないだけでなく、他国の戦争に反対するのは当たり前だ。過去の過ちを忘れるものは、未来の奴隷になる。

現在の日本の政治家を見るに、巴金の言葉は戦争反対の確かな遺言になっているのではないのでしょうか。

関連記事 (写真入り)

【中国】巴金氏：国民的作家、惜まれて100年の人生に幕

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20051018-00000008-scn-int>

(サーチナ・中国情報局) - 10月18日15時25分更新

近代中国文学界の重鎮、巴金氏死去

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20051018-00000168-reu-ent>

(ロイター) - 10月18日20時28分更新

●10/24 今井さんから；掲載ありがとうございます

祖母が、先日、1人で、たまたまテレビ（NHKではないみたいなのですが）で、満州で、まだ小さい母をたびたび、航空隊のお人が飛行機にのせてくださっていたことを、放映したとのことでした。

祖母は、自分のことだと、びっくり！ そのかたは、是非あいたいとのこと。放送した局（名古屋地方局）をおぼえていないので（テレビはおおげさになってしまうので、個人的に静かに思い出をやりとりしたいようです）どなたか、放送をご覧になったか、航空隊のお人をご存知のかたがあれば、御連絡、宜しく、おねがいたします。

<80才からのメッセージ> 小泉首相は、ニューヨーク・タイムズに、
どう答えるか。

拝啓 総理大臣小泉純一郎殿

あなたは、今秋5度目の靖国神社参拝をなさいましたね。中国は日中関係をよくしようと、小泉首相の参拝回避を期待していた。外交上のシグナルで最低これさえないければ、友好を続けようと考えていました。

それをあなたは挑発するように期待を裏切りましたね。中国や韓国の反発についても「戦没者に哀悼の誠をささげるのは当然だ。」と、従来の言い方を繰り返していました。さらに「総理大臣の職務として参拝したんじゃない。」とか「心の問題に他人が干渉すべきではない。」と強弁し、個人の信条を全面に押し出し、正当性を主張していました。

私としては、この言葉を、日中関係は事実上断絶に近い形だと受け取りました。そして、事はアジアだけではなくあります。アメリカの10月18日付ニューヨーク・タイムズの社説で小泉首相の靖国神社参拝について「無意味な挑発」と掲載しています。

小泉首相は「日本軍国主義の悪しき伝統」を公然と受け入れてきたと指摘し、戦後60年を踏まえ「この時期に日本の周辺国に悪夢を呼び起こすのは まった

くの誤り」と批判しています。

社説は「靖国神社は単に戦没者の慰霊だけではなく、韓国や中国、東南アジアに傷跡を残した残虐行為について非を認めない立場を宣伝している。」と指摘。靖国参拝は「日本の戦争犯罪の犠牲者の子孫に対する意図的な侮辱だ」と断じています。

その上で、「こうした挑発は、中国が日本の最も重要な経済のパートナーとなり、最大の地政学的課題になる中、まったく余計なことに見える」と指摘。「首相は、国家主義者におもねるのでなく、ねじ伏せることが必要だ。21世紀に尊敬を得るよう、今こそ日本は20世紀の歴史を直視する時だ。」と結んでいます。(10月19日 毎日新聞より)

さて、小泉総理、あなたの尊敬するブッシュ大統領がいて日米同盟のなかまでもあるアメリカの有力新聞、ニューヨーク・タイムズが客観的に見て、苦言を呈しているのです。

あなたはこれにどう答え、いかに行動されるのでしょうか。日本国民の一人として、謹んで申し上げます。ご返事をお願いします。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<老兵の戯言> 小学生の学力差

愚孫(小2)が通っている学校は、今風に言うと、ちょっとした「地域」、俗にいう「医者と大学の先生が多い」団地内にある。孫達は、もう既に、かなりの漢字を習っている。ところが、1日に覚える「漢字の数」が多くなると、「パニック」になる子供がいるらしい。

ある時、日記を書いている孫に、愚妻(元小学校教師)が、「どうして、その漢字を消すの」と、尋ねたら、「習っていない漢字は、使っては、駄目なの」と云った。一体、今の「小学校教育」は、どうなっているのだろう。

換言すれば、この頃（小2）から、子供の能力に「差」が生じることになる。これは、子供の能力は、紛れもなく「遺伝」であることを示している。さあ、大変。彼等が、この調子で、もし「大学まで」進むのであれば、学力の「差」はどうなってくるのだろう。

この話、第二の人生を「教育に賭けている」筆者にとっては、まさに驚嘆・落胆であった。これまで「人間の能力」には、それほど「大きな差」はない、と云って、学生を「鼓舞」してきた筆者にとって、收拾がつかなくなってしまった。

今、巷の大学生の「能力差」に、失望していた筆者には「なきっ面にハチ」である。奇しくも、いま筆者が「狂気の沙汰」で取り組んでいる「キリ学生」の教育が、将来「正常な大学教育」として「必須」となってくることは間違いない。それは、「能力別」に、講義をすることである。

国家存亡の危機にある、わが国の「義務教育の復活」はあるのか。その方策やいかに。誰が、何処で、どうするのか。

藤原 昇

山崎農業研究所会員・九州女子短期大学・客員教授

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<玉川上水の謎> その11 おわりに

「はじめ」に述べた疑問点：「工事期間が約1年という短さ」、「計画設計図面は作られたか」、「多摩川の調査記録はあったか」、「路線の決定はどのようにされたか」について、話の中で幾つかの疑問を示した。

指摘してきたように、このような大規模な工事には高度な計画・設計技術なしではおそらく不可能であろう。個人の技術レベルで出来るものではない。ただ、残念なことに、その証拠となる具体的な全体計画、設計図、測量図、その施工状況を示す書類がないことだ。疑問は疑問を生み、かえって謎を深める結果となった。

しかし今までの話から次のようなことを言ってよいと思う。

- (1) 1年足らずの短期間に仕上げたと言うことはあり得ない。もしあるとすれば、何らかの条件が欠落している。
 - (2) 工事記録はあったに違いない。図面も無いことには深い理由があろう。
 - (3) 江戸の都市計画や農業開発、地域振興政策との関係は深い。
- 以上がまとめである。

(1)、(2)は互に関係する。(1)については今まで説明した技術上の困難性から納得できると思う。短期間に出来たとすれば、すでにある程度、既設の水路があったのかも知れない。もし技術的に生ずる問題は事前に分かっていたとすれば、(2)の計画、設計図および詳細なルートに関する詳細な情報は残されたと考えてよい。無いのはどこか嚴重に一括保管されたのではないだろうか。

(3)については上水完成(1653～1654年)の数年後に江戸都市計画図(1657年)が示されている。これは当時すでに都市計画があったことを示すものだろう。

上水は灌漑用水に利用され、農業生産向上におおいに寄与したのは偶然とは思えない。上水とほぼ同じ時代に造られた分水である野火止用水は農村開発に大きく寄与した。この用水は上水の多摩川からの取水位置および路線選択にも深く関わっている。

玉川上水は国家的な大事業であったろう。この実現は幕府の都市・農村計画、ひいては民生安定政策にも大きい意味をもたらしたと思われる。

技術面から見る玉川上水の散策もおもしろいものである。同時にこれらの謎が解ければ技術史上にも一石を投じるだろう。

(おわり)

安富 六郎

山崎農業研究所会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ だより>

全国のリトルファーミングクラブをウェブで紹介

ジョギングや音楽なみにリトルファーミングの裾野人口がいるわけですが、ジョギングの場合、各地に「ジョギングクラブ」が形成されています。

元選手やコーチが、世話人となって、アフターファイブにサラリーマンやOLの人達が集ってきて、走ることを楽しむ。

もちろん、「コンパ要員」もいるし、サブスリー（フルマラソン2時間台）を目指す人もいる、クラブの運営もまちまちで、皇居前や公園のような場所で施設代が不要の場合もあれば、専用のグラウンド、更衣室を確保しているところ、コーチ代も含めてみんなで会費を払っているところ、中には競争せず、走ることを楽しむために「鬼ごっこ」をして遊んでいるクラブもあります。

「リトルファーミングクラブ」もこういう展開でいきたいと思っています。プロ、セミプロを目指す集団、土日の菜園を楽しむ、野菜とお花を一緒に育てて楽しむ、お料理の方法も一緒に覚える、いろいろな集団があっていいと思います。

そして、各地のリトルファーミングクラブをウェブで紹介したい、ウェブ上でみんなで交流していきたいと思っています。

電子耕読者の皆様、お知り合いの皆様で、自分たちの「菜園活動」について、他の人達とインターネットで交流したいとお考えの方は、是非、リトルファーミングクラブとしてご登録ください

（登録料は無料です。登録ご希望の方には、登録用紙を送ります。）

◆田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク
後援 社団法人 農山漁村文化協会

ウェブサイト：<http://www.kinou.net> メール：info@kinou.net

環境クラブ代表

首都圏帰農サポートネットワーク事務局長 増山 博康

<編集後記> 臭うということはそんなに悪いことなのか？

『電子耕』でも何回か取り上げた榎本牧場さんについて知人と話していたときのこと。アイスクリームは美味しいんだけどねえ、ちょっと臭いが… と知人がもらした。なるほど、牛舎のすぐそばに売店はあるからたしかに臭いはす

る（餌（サイレージ）と糞によるもの）。だが、臭いは家畜だけでなく人間にもある。お前だって臭うだろう？ と言ったら知人は笑っていた。

日本では臭うということがいま極端に嫌われている。消臭グッズは大はやりだ。しかし臭う・臭わないは多くの場合慣れの問題である。以前訪れたことのあるスイスでは駅をおりたら牛糞の臭いがかすかにした。ホームに降り立った瞬間「あれ？」と思ったが、ものの数分でわからなくなってしまった。かなり都市部であったと記憶しているが、さすが牧畜の盛んなスイスだけある、などと感心したものだ。臭いは個性の反映ともいえるだろう。

臭いがあるからダメだといったような風潮はおかしくないか。

2005年11月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 171号の締め切りは11月14日、発行は11月17日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 170 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://blog.mag2.com/m/log/0000014872>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.11.03（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

*****ここまで『電子耕』*****